令和4年度　評価規準

学校名：江戸川区立二之江中学校

教科	数学	学年	第1学年

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
0章 算数から数学へ [整数の性質]	4	○素数の意味を理解する。 ○自然数を素因数分解することができる。 ○整数を2つの自然数の積に表した形から、倍数や約数の性質を見いだすことができる。	○素数の意味を理解している。 ○自然数が素数と素数ではない数に分けられることを理解している。 ○素因数分解の意味とその方法を理解している。 ○自然数を素因数分解することができる。	○整数を2つの自然数の積に表した形から、倍数や約数の性質を見いだすことができる。	○整数を2つの自然数の積の形に表すことに関心をもち、その結果からわかることはないか考えようとしている。 ○自然数を素因数分解することに関心をもち、いろいろな方法で素因数分解しようとしている。
1章 数の世界をひろげよう [正負の数]	25	○正負の数の必要性と意味を理解する。 ○正負の数を数直線上に表したり、絶対値をもとにして、正負の数の大小を考えその関係を不等号を使って表すことができる。 ○絶対値の意味を理解し，絶対値をもとにして正負の数の大小を考え，その関係を不等号を使って表すことができる。 ○正負の数の四則の計算ができる。 ○正負の数の四則の混じった計算ができる。 ○正負の数の分配法則を利用した計算ができる。 ○正負の数を利用して，身長の平均をくふうして求める方法を考え，説明することができる。	○正負の数の必要性と意味を具体的な場面と結び付けて理解している。 ○正負の数の大小関係や絶対値の意味を理解している。 ○正負の数の四則計算をすることができる。 ○具体的な場面で正負の数を用いて表したり処理したりすることができる。	○算数で学習した数の四則計算と関連づけて，正負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 ○数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ○正負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。	○正負の数の必要性と意味を考えようとしている。 ○正負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○正負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
2章 数学のことばを身につけよう [文字と式]	19	○身のまわりの問題を、具体的な数の計算をもとに考え、文字を用いて一般的に表す必要性を理解する。 ○単項式と多項式、次数、同類項の意味を理解し、同類項をまとめる計算や、多項式の加法や減法の計算ができる。 ○多項式の計算ができる。 ○単項式どうしの乗法と除法の計算ができる。また、式の値をくふうして求めることができる。 ○数の性質が成り立つことを、文字を使って説明することができる。 ○目的に応じて等式を変形することの必要性を理解し、等式を変形して、ある文字について解くことができる。	○簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすることができる。 ○具体的な事象の中の数量の関係を文字を使った式で表したり、式の意味を読み取ったりすることができる。 ○文字を使った式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 ○目的に応じて、簡単な式を変形することができる。	○具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現することができる。 ○文字を使った式を活用して具体的な場面を考察し表現することができる。	○文字を使った式の必要性と意味を考えようとしている。 ○文字を使った式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○文字を使った式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

令和4年度　評価規準

学校名：江戸川区立二之江中学校

教科	数学	学年	第1学年

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3章 未知の数の求め方を考えよう ［方程式］	15	○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。 ○方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。 ○等式の性質を使って、方程式を解くことができる。 ○移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 ○かっこを含む方程式や、係数に小数を含む方程式を解くことができる。 ○係数に分数を含む方程式を解くことができる。また、1次方程式を解く手順を理解する。 ○具体的な問題を、方程式を利用して解決するときの考え方や手順を理解する。 ○個数と代金に関する問題を、方程式を利用して解決することができる。 ○速さ・時間・道のりに関する問題を、方程式を利用して解決することができる。また、求めた解が問題に適しているかどうかを考え、説明することができる。 ○過不足にまつわる問題を、方程式を利用して解決することができる。 ○比例式の性質を理解し、その性質を利用して文字の値を求めたり、具体的	○方程式の必要性と意味を理解することができる。 ○方程式の解や等式の性質、以降の意味を理解することができる。 ○簡単な1次方程式、比例式を解くことができる。 ○事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式を作ることができる。 ○1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの、解の吟味の意味と必要性を理解することができる。	○等式の性質を基にして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができるようにする。 ○方程式において、移項できる理由を等式の性質を基にして考察し、表現することができる。 ○具体的な場面の問題において1次方程式を活用して、問題を解決することができる。 ○具体的な場面の問題において解を吟味して解答として良いかどうか判断することができる。	○方程式の必要性と意味を考えようとする。 ○正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討しようとしている。 ○方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとする。 ○方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとする。
4章 数量の関係を調べて問題を解決しよう［比例と反比例］	23	○身の回りの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○関数の意味及び変域の意味と表し方を理解し、変域を不等号を使って表すことができる。 ○2つの数量の間に関数の関係があるかどうかを判断することができる。 ○身の回りの問題を、関数の考えを利用して解決することができる。 ○比例の意味を理解し、比例の関係を式にすることができる。また、反比例の意味を理解し、反比例の関係を式に表すことができる。 ○xの変域や比例定数を負の数に広げても、比例や反比例の性質が成り立つことを理解する。 ○yがxに比例するとき、1組のx、yの値から比例や反比例の式を求めることができる。 ○座標の意味や点の位置の表し方を理解し、点の座標を求めたり、座標を平面上の点で表したりすることができる。 ○比例や反比例について、xの値が増加するときのyの値の変化の特徴を理解する。また、比例や反比例のグラフの特徴をもとに、グラフを書くことができる。 ○比例や反比例の表、式、グラフを関連付けて理解する。また、比例のグラフ	○関数関係の意味を理解することができる。 ○比例、反比例について理解することができる。 ○比例、反比例を表、式、グラフなどに表すことができる。	○比例、反比例として捉えられる2つの数量について、表、式、グラフなどを用いて調べ、それらの変化や対応の特徴を見出すことができる。 ○比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	○関数関係の意味や比例、反比例について考えようとしている。 ○比例、反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○比例、反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。
5章 平面図形の見方をひろげよう ［平面図形］	18	○様々な移動の意味とその性質を理解する。 ○2つの合同な図形の関係を移動の見方で捉え，説明することができる。 ○作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し，簡単な作図ができる。 ○垂線、垂直二等分線、角の二等分線を作図する方法を理解し，作図することができる。 ○基本的な作図を利用して，円の接線やいろいろな条件をみたす図形を作図することができる。 ○おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。	○平行移動，対称移動及び回転移動について理解している。 ○平面図形に関する用語や記号の意味と使い方を理解している。 ○角の二等分線，線分の垂直二等分線，垂線などの基本的な作図の方法を理解している。 ○おうぎ形の弧の長さと面積を求めることができる	○図形の移動に着目し，2つの合同な図形の関係について考察し表現することができる。 ○線対称な図形の性質をもとにして，基本的な作図の方法を考察し表現することができる。 ○図形の移動や基本的な作図を具体的な場面で活用することができる。	○平面図形の性質や関係を捉えることの必要性と意味を考えようとしている。 ○平面図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○図形の移動や基本的な作図を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている

令和4年度　評価規準

学校名：江戸川区立二之江中学校

教科	数学	学年	第1学年

単元名	時数	単元の到達目標（小単元のねらい）	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6章 立体の見方をひろげよう [空間図形]	19	○身のまわりにあるものから立体を見いだし，それらの立体をいろいろな見方で分類することができる。 ○多面体の意味を理解する。また，角錐や円錐の意味とそれらの特徴を理解する。 ○正多面体の意味とその特徴を理解する。 ○空間内にある平面と平面，平面と直線，直線と直線の位置関係を理解する。 ○角柱や円柱，円錐，球などを，平面図形の移動によってできた立体とみることができる。 ○角柱，円柱、角錐，円錐の展開図とその特徴を理解する。 ○投影図の意味を理解する。 ○角柱や円柱の体積の求め方を理解し，それらを求めることができる。 ○角柱や円柱，円錐の表面積の求め方を理解し，それらを求めることができる。 球の体積や表面積の求め方を理解し，それらを求めることができる。	○空間における直線や平面の位置関係を理解している。 ○立体図形の展開図や投影図について理解している。 ○柱体や錐体，球の表面積と体積を求めることができる。	○空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えることができる。 ○空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだすことができる。	○立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができる。・空間図形の性質や関係を捉えることの必要性や意味を考えようとしている。 ○空間図形について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
7章 データを活用して判断しよう [データの分析と活用]	11	○既習のデータの整理や分析の方法を，問題解決に生かそうとしている。 ○データを度数分布表やヒストグラムに表し，分布の特徴を読み取り，説明することができる。 ○相対度数の必要性と意味を理解しする。 代表値や範囲を用いてデータの分布の傾向を読み取り，説明することができる。 ○目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。 ○不確定な事象の起こりやすさを，その事象の起こる割合や試行の回数に着目して考え，説明することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解する。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り，説明することができる。	○ヒストグラムや相対度数などの必要性と意味を理解している。 ○累積度数，累積相対度数の必要性と意味を理解している。 ○代表値や範囲の必要性と意味を理解している。 ○コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解している。	○目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することができる。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。	○ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を考えようとしている。 ○ヒストグラムや相対度数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ○ヒストグラムや相対度数を活用した問題解決の過程を振り返って検討したり，多面的に捉え考えようとしたりしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性や意味を考えようとしている。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。
予備時間	6				